

仏教界からも参加

キリスト教団体主催 いのフェス

教派を越えてキリスト教の団体が一堂に会するフリーマーケット型イベント「いのり☆フェスティバル2013」が14日、東京の早稲田奉仕園で開催され、キリスト者のみならず他の宗教者や一般人で賑わった。

2011年に初開催以後、じわじわと人気を拡大している「いのフェス」。今回もキリ



特別企画としては、首都大学東京の宮台真司教授とカトリックの晴佐久昌英司祭の対談「信

ヴもあるなど、クロスオーヴァーな色彩も出てきている。

スト教系出版社や、イラスト・音楽などのアーティスト、教会、大学といった多様な出展があった。仏教界からも「リースタイルな僧侶たち(池口龍法代表)」が参加。「牧師ROCKS」と「坊主バンド」の競演ファイ

じる者はホントに救われる?」と、教会、寺、神社の息子3人がざくばらんにトークする「日常系ゆるスピ座談会」が行なわれた。お寺の息子は「リースタイルな僧侶たち」の一員でマンガ家



ゆるスピ座談会を行った半田さん、光澤さん、堀さん(左から)

この様子はUSTR EAMで視聴可能。

「基本的な僧侶たる時に遊べないんですよ、年末年始とか。私

でもある光澤裕顕さん、神社の息子は国学院大学の半田竜介さん、教会の息子は早稲田大学の堀真悟さん。「お寺、教会、神社の子どもで困ったことは」という質問には「ピアスをあけたらめっちゃ怒られましたね」と光澤さんが笑いを取り、半田さん

4 大宗教揃い踏み

は旅行したがりの子どもだったけど、夏休みもずっと家にいて」とホッペをポロリ。

堀さんからは「教会婦人っていうヤバイ言葉があるんですよ。教会婦人にはできるだけ教会にいてほしい、パートにも出てほしくない、という話があったり」と、仏教界と共通するような家庭の悩み話も。一方、「後継者問題」や「公益性」、「宗教と性差」などについて真摯な話もあり、青年宗教者のありのままの思いを会場は深く聞きとめていた。後半には日本ムスリムのナセル永野さんも登壇、4大宗教が揃い踏みになった。